

(3) 大問 [三] 国語基礎力の応答分析, 考察, 指導上の留意点

問一

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問一 (1)	正答	三	94	95	79	268	89.3
	誤答	二	4	1	7	12	4.0
		四		1	9	10	3.3
		五	2	2	5	9	1.0
		(その他)		1		1	0.3

主張の根拠の数を指摘する問題である。正答は「三」で、正答率は89.3%。〈a b - c 型〉を示しているが、どの群も正答率が高い。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問一 (2)	正答	ウ (③)	97	90	76	263	87.7
	誤答	エ (④)	1	3	14	18	6.0
		イ (②)	2	6	9	17	5.7
		ア (①)			1	1	0.3
		オ (⑤)		1		1	0.3

「花子さん」が挙げた根拠の中から、さらに具体化して示すべきものを選択する問題である。正答はウの「③」で、正答率は87.7%、〈a b - c 型〉を示しているが、どの群も正答率が高い。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問一 (3)	正答	イ (②)	94	84	73	251	83.7
	誤答	エ (④)	3	12	18	33	11.0
		ウ (③)	2	1	6	9	3.0
		ア (①)	1	3	1	5	1.7
		オ (⑤)			2	2	0.7

根拠の一つとして挙げられた例の中から、一般的でなく、根拠として適切でないものを選択する問題である。正答はイの「②」で、正答率は83.7%、〈a - b - c 型〉を示している。誤答エを選んだ生徒は、④を「花子さん」の個人的な考えと判断したのであろう。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問一 (4)	正答	ア (自分の意見を主張するだけでなく、～)	83	56	44	183	61.0
	誤答	ウ (今の政治は若者を意識した政策が不足～)	13	26	33	72	24.0
		イ (成人年齢についても、二十歳以上から～)	2	8	10	20	6.7
		オ (起承転結の構成になっていないから、～)	2	8	9	19	6.3
		エ (自分の意見を一方的に主張しているから、～)		2	4	6	2.0

新しく加えた意見の内容から、どのような観点によって推敲したかを判断する問題である。自分の主張を相手に伝える際には、予想される反論を踏まえて意見を述べるのが求められる。正答はア、正答率は61.0%で、〈a - b c 型〉を示している。誤答を選んだ生徒は、新たに加える意見の中の「十代の若者は政治に興味がないから、二十歳からでいい」という主張を、「花子さん」への反対意見と判断することができなかつたと考えられる。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問一 (5)	正答	エ (相手を緊張させないように視線を伏せ, ~)	100	97	95	292	97.3
	誤答	ア (話し手の顔を見て, しっかり聞いている~)		1	2	3	1.0
		ウ (積極的に質問できるように, 気付いた~)		1	1	2	0.7
		オ (自分の意見との共通点や相違点を考え, ~)				2	0.7
		イ (テーマや話し手の考えなどを, 理解する~)		1		1	0.3

よいスピーチが成立するための、聞き手の態度として適切でないものを選択する問題である。正答はエで、正答率は97.3%である。〈a b c型〉を示しており、どの群でも適切に理解していることがうかがえる。

問二

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問二	正答	ウ (弟のわがままは, <u>目に余る</u>)	37	29	19	85	28.3
	誤答	エ (その答えは, <u>的を得ている</u>)	38	33	29	100	33.3
		イ (理不尽なことで責められ, <u>怒り心頭に達した</u>)	11	19	28	58	19.3
		ア (彼とは気が置けない仲なので, 一緒に旅行には行きたくない)	9	9	20	38	12.7
		オ (敵国同士が, <u>膝を交えて戦った</u>)	5	10	4	19	6.3

言葉の正しい使い方を選択する問題である。正答率は28.3%で、低位の〈a - b - c型〉を示している。語彙に関する知識の不足が感じられる。間違えやすい語については、正しい意味や用法を指導していく必要がある。

問三

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問三	正答	ア (プロセス)	97	78	61	236	78.7
	誤答	イ (エゴイズム)	3	16	17	36	12.0
		ウ (メディア)		3	17	20	6.7
		オ (タブー)		2	4	6	2.0
		エ (カリスマ)		1	1	2	0.7

カタカナ語について、文脈に合うものを選択する問題である。正答率は78.7%で、高位の〈a - b - c型〉を示している。「プロセス」という語の意味については、多くの生徒が理解していることが分かる。

問四

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問四	正答	エ (召し上がりますか)	72	53	46	171	57.0
	誤答	オ (お召し上がられますか)	27	40	46	113	37.7
		イ (お食べしますか)	1	2	5	8	2.7
		ア (食べますか)		3	2	5	1.7
		ウ (いただきますか)		2	1	3	1.0

敬語の正しい使い方を選択する問題である。正答率は57.0%で、〈a - b c型〉を示している。誤答の中ではオを選んだ生徒が多いが、オは尊敬表現の基本である「お~になる」の形になっていない点に注意する必要がある。

問五

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問五	正答	イ (狐)	70	54	34	158	52.7
	誤答	ア (鷹)	20	37	45	102	34.0
		エ (狸)	6	6	8	20	6.7
		ウ (猿)	3	1	7	11	3.7
		オ (猫)	1	1	6	8	2.7
		(無 答)		1		1	0.3

動物を使った慣用句の知識を問う問題である。〈a - b - c 型〉を示している。約半数の生徒が「狐につままれる」という表現を知らないことが分かる。

問六

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (1)	正答	紛失	52	45	21	118	39.3
	誤答	粉失 (「紛」の偏の違い)	32	36	33	101	33.7
		□失 (「紛」が別の字, または無表記)	14	10	14	38	12.7
		(その他)	1	5	11	17	5.7
		(無 答)	1	4	21	26	8.7

「フンシツ」を漢字に直す問題である。〈a b - c 型〉を示している。全体では「粉失」(「紛」の偏の違い)とした生徒が33.7%おり、c 群では無答が多い。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (2)	正答	展開	78	70	53	201	67.0
	誤答	□開 (「展」の間違い, または無表記)	13	15	19	47	15.7
		展□ (「開」が別の字)	3	2	7	12	4.0
		転回	3	2	5	10	3.3
		(その他)	1	3	8	12	4.0
		(無 答)	2	8	8	18	6.0

「テンカイ」を漢字に直す問題である。過去に昭和62年度と平成12年度 (ともに正答率50.0%) に出題されているが、正答率は大きく上がっている。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (3)	正答	控 (える)	65	64	50	179	59.7
	誤答	(傍の間違い)	3	6	8	17	5.7
		据	4			4	1.3
		(偏の間違い)		1		1	0.3
		(その他)	5	10	11	26	8.7
		(無 答)	23	19	31	73	24.3

「ヒカ (える)」を漢字に直す問題である。〈a b - c 型〉を示している。a 群にも無答が多い。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (4)	正答	こうさく	52	29	19	100	33.3
	誤答	こうさ	40	65	66	171	57.0
		こうしゃく	6	3	7	16	5.3
		(その他)	2	3	8	13	4.3

「交錯」の読みを答える問題である。正答率は33.3%と低く、〈a-b-c型〉を示している。「交錯」という語を知らない生徒が多いと考えられる。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (5)	正答	うけたまわ(り)	86	81	62	229	76.3
	誤答	まい(り)	4	8	20	32	10.7
		かしこま(り)	1	5	10	16	5.3
		(その他)	9	5	8	22	7.3
		(無答)		1		1	0.3

「承(り)」の読みを答える問題である。正答率は76.3%で、〈a-b-c型〉を示している。c群に「まい(り)」と解答した生徒が多い。過去に出題した平成14年度(正答率60.0%)を上回ったが、昭和43年度(同80.0%)にはわずかに及ばなかった。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (6)	正答	ゆる(やか)	95	87	78	260	86.7
	誤答	おだ(やか)	5	12	21	38	12.7
		(その他)		1		1	0.3
		(無答)			1	1	0.3

「緩(やか)」の読みを答える問題である。正答率は86.7%で、高位の〈a-b-c型〉を示している。誤答は、「おだ(やか)」がほとんどであった。生徒にとっては語感が近いのではないと思われる。

〈指導上の留意点〉

実 態 及 び 問 題 点	
スピーチやプレゼンテーションから日常会話まで、社会生活においては自分の主張を分かりやすく的確に相手に伝える言語活動が欠かせない。自分の意見を伝える方法を概ね理解した生徒たちに、授業の中で実践する場を設定し、経験を重ねる中で確かな力を育てる必要がある。	
指導における改善の具体策	
グループによる対戦型プレゼンテーション(トーナメント方式)によって本の紹介を行い、自分の主張を伝える力や相手の主張を理解する力を高める。	
学習活動 (50分授業×2時間)	
①紹介したい本を1人1冊用意しておき、5人グループ(40人学級8チームを想定)の中で紹介する本を3冊選択する。グループ内で本の内容を共有し、プレゼンテーション内容を考える。班員は決勝戦まで3回戦を想定し、本の紹介順序を決め、1回戦ごとにプレゼンテーション担当1名・質疑応答担当3名・他チーム対戦時の司会進行担当1名をそれぞれ分担する。【1時間】	<div style="text-align: right; margin-bottom: 5px;">教室</div>
②対戦は、両チームが紹介する本のプレゼンテーション(1分半ずつ)をした後に質疑応答(2分)を行う。観戦者は質疑応答が終わった後に、どちらの本に魅力を感じたか挙手をして勝者を判定する。挙手が多かったチームは次の対戦に進む。全7試合により優勝チームを決定する。	